

# 熊本労災病院が担う役割について

令和5年11月  
労働者健康安全機構 熊本労災病院

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

理念：良質で信頼される医療の実践

基本方針：

1. 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
2. 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
3. いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
4. 人にやさしく優れた医療人を育成します。
5. 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 診療実績

届出入院基本料：一般病棟（7：1）入院基本料 404床  
ICU 6床

平均在院日数： 13.9日（令和4年度実績）

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

職員数（令和5年10月1日現在）：

医師 97名（うち 基幹型初期研修医8名）、

看護職 421名、医療職118名、事務職 66名、技能職 20名

計 722名

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

自施設の特徴

救急医療を含む、高度急性期医療、および急性期医療を担う医療機関

## 自施設の担う政策医療（1）

### 【がん】

国指定のがん診療連携拠点病院として、外科治療、化学療法、放射線治療、緩和ケア、がんリハビリテーション、治療と就労の両立支援、に取り組む。

### 【脳卒中】

脳神経内科による超急性期血栓溶解療法（t-PA療法）への対応、脳神経外科の急性期外科治療の実施。

### 【急性期心筋梗塞】

熊本県急性心筋梗塞拠点病院として、時間外を含めた専門的医療の提供。血管撮影装置（バイプレーン、シングルプレーン各1台）の更新（2017、2019年度）による高水準の医療機能の維持、救急搬送患者の受け入れ。

# 1 現状と課題

## 自施設の担う政策医療（2）

### 【救急医療】

「断らない救急」の実践。ヘリポートも活用した広域救急医療への貢献。救急専門医の育成や招聘と、看護体制も含めた救急医療担当部門の組織化による機能向上への体制整備。

### 【災害医療】

災害拠点病院、県DMAT指定病院として、熊本地震や球磨川豪雨における災害派遣やDMAT前線拠点病院となった経験を活かし、日頃の訓練を含めた災害医療の実践に取り組む。令和7年度竣工予定の「高度医療・災害対応棟」により、被災者受け入れ能力の向上や非常時インフラ確保、備蓄の充実を図る。

### 【周産期医療・小児医療】

県地域産科中核病院であるが、現在令和6年度以降の産科医師確保を含め、その機能の維持確保にむけて尽力する。また、助産師を中心にした産後ケアや乳房ケアを継続的に行う。近隣開業医からのオープンシステムによる分娩の受け入れ、他院出生の新生児の受け入れや、要事、小児科医師の派遣などの医療機関連携も必要に応じて実施する。小児初期救急医療病院としては、小児科専門医待機を継続し、地域住民に安全安心な医療提供を図る。

# 1 現状と課題

## 自施設の担う政策医療 (3)

### 【感染症への対応】

結核患者用に設置した陰圧室2床を含め、新型コロナウイルス感染症確保病床を20床としているものの感染蔓延時には最大50床用意し、診療・検査医療機関、入院対応医療機関として、感染蔓延状況に応じて、一般医療と共存するべく対応を行う。

### 【勤労者医療（予防医療）】

健康診断センターの体制を整備し、各種がん検診や脳ドックなどの予防医療活動を拡充し、これまで行ってきた振動病やじん肺などの勤労者医療も継続する。

### 【治療と仕事の両立支援】

治療就労両立支援部による相談窓口を常設して両立支援コーディネーターを配置し、職場の産業医などとも連携して、がん、脳卒中、心血管障害における両立支援を継続する。

# 1 現状と課題

## 【他施設との連携】

- ・ 開業医や介護施設等との連携をさらに深めるため、医療従事者に対する教育・研修会を実施。
- ・ 地域医療支援病院運営委員会を開催し、行政機関や医師会等との医療の提供に関する検討や意見交換を行う。令和5年度から、「熊本労災病院地域医療連携検討委員会」を設置し、圏域医療機関への医師派遣機能の向上を図っている。他医療機関と協働で、圏域内へき地診療所への医師派遣を継続する。
- ・ 入退院支援センター、地域医療連携室の機能強化により後方支援医療機関との連携機能を強化している。
- ・ 熊本メディカルネットワークは、専任職員の配置により、積極的かつより効率的にその利用向上を図っている。
- ・ 県地域産科中核病院であるが、現在令和6年度以降の産科医師確保を含め、その機能の維持確保にむけて尽力する。また、助産師を中心にした産後ケアや乳房ケアを継続的に行う。近隣開業医からのオープンシステムによる分娩の受け入れ、ハイリスク妊婦の対応や、他院出生の新生児の受け入れ、要事、小児科医師の派遣などの医療機関連携も必要に応じて実施する。



# 1 現状と課題

## 【自施設の課題】

- 回復期（後方支援）病床の確保

急性期医療を担ううえで、その後の回復期の受け皿となる医療機関の確保にさらに努める。

- 施設の老朽化

建設後32年となる病棟や手術室などの老朽化が著しく、患者サービスや医療安全上の課題となっている。

- 医師・看護師・薬剤師などの医療スタッフの確保

産科や外科系各科など、全国レベルでの医師偏在を反映して、診療機能維持に必須である医師の不足があり、医師の働き方改革の推進も喫緊必須の課題であることから、それを見据えた医師業務負担軽減策のさらなる徹底、タスクシフト・シェアを担う、看護師や薬剤師などの専門医療職の充足も課題である。

## 2 今後の方針 (1)

### 【地域に於いて今後担うべき役割】

#### 1. 職員の確保：

休止が想定される産科をはじめ、心臓血管外科、脳神経外科、脳神経内科、小児科、麻酔科、等の診療科医師の確保に向け、引き続き、派遣元である大学医局への働きかけや他の派遣元開拓の努力を行っていく。また、薬剤師、看護師、などの職種でも慢性的な不足があり、医師のタスクシフト・シェア強化のためにも、業務の見直しとともに補充対策を継続する。

#### 2. 診療機能：すべて継続する方針

##### (1) 救急医療：

現在の「断らない救急」を継続するとともに、救急専門医の育成や招聘と救急部独立によりさらに専門性を高め、後進の育成にも努める。

##### (2) がん診療：

院内がん診療の組織化（がん総合診療センター）を図り、外来化学療法室や各種検診機能の充実を行い、疾病の予防、早期発見、早期治療、治療と就労の両立支援を強化する。

##### (3) 新設診療機能：

行政や医師会などの要望に基づき、熊本大学医局の御高配のもと、八代圏域発となる歯科・口腔外科の新設を予定している。その際は、近隣開業医とのき機能分担を明確にし、医療ケア者の診療や、県南地域でなお少ない、入院機能を有する歯科・口腔外科診療を実施する。また、「高度医療・災害対応棟」が竣工予定で、手術室の増室、映像記録装置の全室設置、内視鏡手術支援ロボットやハイブリッド手術室の設置、ICUの近代化など、診療機能の向上が医師確保の吸引力になる事が期待される。

## 2 今後の方針 (2)

### 【地域に於いて今後担うべき役割】

#### 3. 新興感染症への対応：

新型コロナウイルスへの対応で行ってきた、診療・検査医療機関、入院受け入れ医療機関としての機能は常に維持し、最大50床の受け入れ病床を想定しながら、感染蔓延時には、病院をあげて、一般診療の維持と共に最大限の感染者対応を行う。

#### 4. 地域医療支援病院の新たな責務について

(1) 八代市立椎原診療所への医師派遣は、熊本総合病院、八代北部地域医療センターと協働で継続する。

(2) 熊本県地域医療ネットワークの拠点病院として、求められる圏域への医師派遣を継続するほか、令和5年度から、「熊本労災病院地域医療連携検討委員会」を設置しており、郡市医師会長や保健所長にも御参加いただきながら、地域医療機関での医師派遣ニーズを検討し、効果的な医師派遣について今後も検討を続ける。

(3) 救急・災害対応部門として、「救急・災害診療部」を実質的に組織化し、DMAT所属や救急領域での研修を受けた特定看護師を所属させるとともに、令和7年竣工予定の新棟「高度医療・災害対応棟」1階に、700㎡以上となる大規模災害時の緊急診療拠点・被災者収容スペースを設けて、災害時の地域住民の安寧に寄与する。

# 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	57	57	
急性期	353	353	
回復期			
慢性期			
その他			
合計	410	410	

# 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【① 4機能ごとの病床の在り方 その2】

病床機能の転換予定はない

# 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年10月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、脳神経内科、精神科、循環器内科、小児科、麻酔科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科	内科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、脳神経内科、精神科、循環器内科、小児科、麻酔科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科	
新設		歯科・口腔外科	県南での新設要望を受け設置。医師は熊本大学から派遣予定、歯科衛生士は募集で雇用。
廃止	なし		
変更・統合	なし		

# 3 具体的な計画

## (2) 数値目標

	現時点(2023年 8 月時点)	2025年
①病床稼働率	80.1%	88.5%以上
②紹介率	78.4%	70%以上
③逆紹介率	102.6%	70%以上

# 3 具体的な計画

## (3)数値目標の達成に向けた取組みと課題

### 【取組みと課題①】

稼働率向上にむけて：

- ・ 2025年に、「高度医療・災害対応棟」が竣工予定で、手術室機能の向上が図られ、これに伴うがん診療などの拡充で稼働率向上を図る。
- ・ 「高度医療・災害対応棟」においては、県南地域初となるハイブリッド手術室を設置予定であり、循環器・脳血管・整形外科領域など多領域において、より安全で効率の良い治療が可能となる。これらの救急対応を含めた診療機能の向上により患者増を図る。
- ・ 口腔外科新設に伴い、耳鼻咽喉科など境界診療領域のがん治療などの拡充を図る。



# 3 具体的な計画

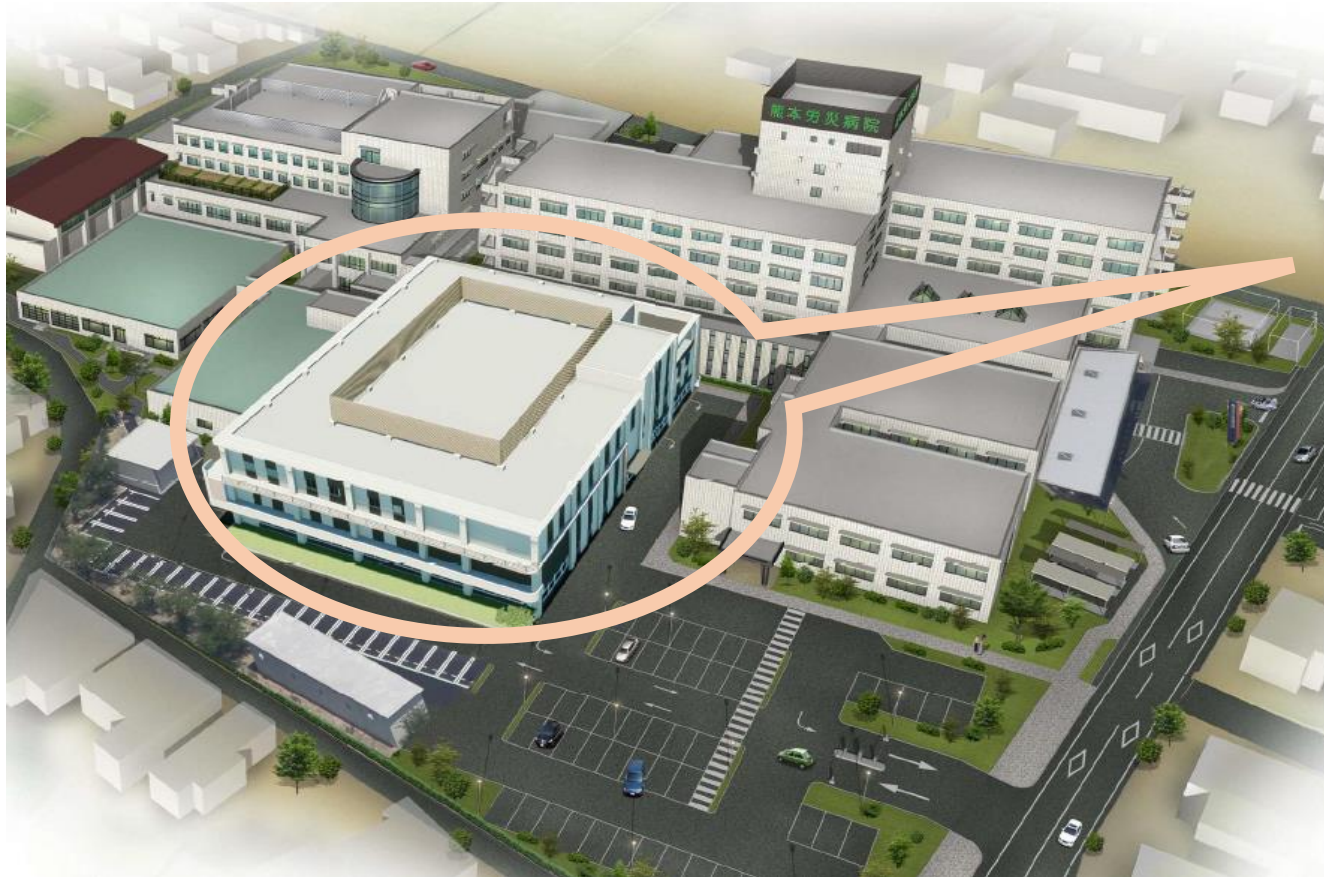
## (3)数値目標の達成に向けた取組みと課題

### 【取組みと課題②】

#### 医療従事者確保の取組み：

- ・ 「高度医療・災害対応棟」が竣工予定で、手術室の増室、映像記録装置の全室設置、内視鏡手術支援ロボットやハイブリッド手術室の設置、ICUの近代化などにより総合的かつ専門的な医療提供体制を継続するとともに、診療機能の向上が医師確保の吸引力になる事が期待される。
- ・ 複数主治医制の徹底や特定看護師の増加など、医師の負担軽減を積極的に図ることにより、就労環境を改善して医師の雇用増加を図る。
- ・ 初期研修医教育をさらに充実させて熊本大学医局への研修医還元を図り、将来の八代地域での専攻医、専門医の定着を支援する。

# 熊本労災病院 新棟建設のお知らせ



全体イメージ



新棟イメージ

新棟では、高度医療に対応する手術室・ICU、リハビリ部門、災害時における地域のみなさんの避難受け入れスペースを設置し、更に地域に貢献してまいります。

当院では、高度医療の拠点、また大規模災害時における緊急避難・診療拠点として、**新棟(高度医療・災害対応棟)**を建設します。**(令和7年6月完成予定)**



Kumamoto Rosai

独立行政法人労働者健康安全機構

**熊本労災病院**

Kumamoto Rosai Hospital

# 4 その他特記事項

なし